

マレーシア・クチン・ドラゴンボート レガッタ参加報告書
10TH EDITION SARAWAK INTERNATIONAL DORAGON BOAT REGATTA 2024

報告者：参加メンバー 山本渉睦

マレーシア・クチンで開催されたドラゴンボートレガッタに参加させていただきましたので報告いたします

日程：2024年10月24日 公式練習日
10月25日 予選
10月26日 開会式・伝統衣装レース・敗者復活レース
10月27日 準決勝・決勝・表彰式

開催場所：マレーシア連邦サラワク州クチン 州会議事堂前サラワク川
特設会場300mコース 4艇レース

参加チーム数：61チーム

マレーシア各州、カザフスタン、オーストラリア、キプロス、ブルネイ、フィリピン、タイ、中華人民共和国および香港、台湾、日本など、国際合同チームとしての参加や1国から複数参加もありました。

カテゴリー：Premier Open・Premier Mix・Premier Women・Masters Open
各20人および10人

使用艇：シーガル20人艇（10人漕ぎでも使用）木製

予備事項：10月最終週はマレーシアが英国から解放されマレーシア連邦設立を記念する行事として毎年開催されています。2024年は第10回大会であり、記念として伝統衣装レースも開催されました。

ボルネオ島南部にあるサラワク州はマレーシア自治州としての色合いが濃く、マレーシア入国後であっても再び入国審査が行われます。マレーシア在住者も入国手続きが必要となっています。

順位決定方法：レース日程1日目に各カテゴリーの予選（1回戦）を行い、各組（4艇）中1位が日程3日目の準決勝進出となります。2日目に各カテゴリーで敗者復活レース（2回戦）を行い、各レースのタイム上位12位までが準決勝に進みます。準決勝4レースの1位各4組により決勝戦が行われます。

コース状況：スタートはポンツーンの係員が龍尾をつかみ、発艇合図とともに手を離す方式です。このため舵がポンツーン下部に潜り込み固定されてしまうため先頭漕手が方向を定める必要があります。ブイは50mごとに設置されています。水質は上流の熱帯雨林からの土を含むことから水が重く少し漕ぎにくい印象です。上流の方にはワニが生息していて水辺に近づくのは危険ですが、コース上では見つかりませんでした。

日本からの参加・戦績および目的について

琵琶湖で練習を行っているチームを主体として「Lake Biwa Japan」として参加しました。しかし、台風10号の影響で日本での他大会と日程が重なってしまい昨年より少人数での参加となりました。Premier Open 10人艇の部・伝統衣装レースに参加しました。Premier Open 10人艇の部は予選敗退、伝統衣装レースは3位という結果となりました。

今回の遠征は、昨年同様にメンバーの技術向上と交流、各国チームとの技術交流と連携作りも目的としました。

遠征チームメンバーは、遠征終了後も定期的に合同練習を実施し遠征等で取得した技術をメンバー全員が意識し技術向上、次回参加時により良い結果を得られるように日々練習しています。この合同練習は今後も続ける予定です。

現地レースの合間に、他国チームとSNSなどで連絡先を交換し送られてきた情報は各メンバーと共有しています。

運営情報の伝達について

大会運営情報はすべてWhatsApp（日本で使われているLINEのようなメッセージアプリ）を用いて配信されます。レース日程と結果はその日毎に配信され、日程の時刻変更なども各チームにWhatsAppを通じて知らされます。その他、レセプションの開催に関する情報や帰国のためのバス手配などもWhatsAppで通知されます。WhatsAppは大会側からの一方的送信になりますが全レースが終了後は各マネージャーに送信権が解放され帰国バスの手配や来年度の日程に関する書き込みが許されるようになります。

選手の移動と宿泊等について

選手の到着と出発に対しては借上バス5台が用意されています。到着については随時バスが待機し、各国選手混載で宿泊会場に向かいます。宿泊会場からレース会場までは徒歩10分程度の距離となっており、ホテルの1棟借りとなっています。

選手にはホテルでの朝食と昼食に弁当が用意されています。飲料水についても大会事務室をホテル内に設けて各チームに必要な数を取りにきてもらい、各自でレース会場まで持っていきます。

レース会場

選手テントは川岸に連なって設営されています。乗艇場はその川岸に並行してポンツーンを設置して入場ゲートと退場ゲートを厳格に分離して効率的な配置となっています。ポンツーンには配艇要員以外にもメンテナンス要員がスタンバイし、艇の破損に備えています。(脚力で椅子を破損する選手が時々居る。) 招集テントには艇の配席を模した状態の椅子が広めのスペースに並べられており、招集員が簡単に選手名簿と本人の照合ができるよう工夫がされています。退場側にもテントが設けられ報道(ユーチューバーも)によるインタビューができるスペースが用意されています。会場では地元音楽や世界的流行音楽を中心としたダンスホール・ミュージックが大音量でかけられており、アップ代わりにするなどチームを超えて交流ダンスを楽しんでいました。レース前にDJの合図で音楽が止まり、各レースが終わると踊り始める光景が随所で見られました。日本からの遠征メンバーも一緒に踊ったりして退屈する時間のない大会でした。(WhatsAppによるタイムリな情報運営のおかげでタイムマネジメントには何ら問題が生じませんでした。)

監督会議について

大会前日の24日に代表者2名参加する監督会議に出席しました。監督会議では主にレース運営の仕方やレース上での注意事項などの説明があり、最後に予選レースの組合せを決める抽選が行われました。説明はすべてPowerPointで制作されており、口頭説明は英語で行われます。PowerPointで制作されたスライドは画像や過去の映像を多く使われておりとても分かりやすくなっています。英語がわからない私でも理解でき、スムーズに会議が進行していきました。予選レースの組合せを決める抽選は、公平に決めるためにパソコン上でプログラムされた抽選機を使い、あらかじめ作っていたチーム一覧を入れると一瞬で組合せが決まりました。多くのチームが参加する今大会にとって画期的なシステムとなっていて、抽選に時間がかからず会議の時間短縮にもつながり、とても良いと思いました。

伝統衣装レースについて

開会式の催しとして伝統衣装レース(Traditional costume race)が行われ、日本も参加させていただきました。8チームの参加で4チームずつの2レース行い、タイム順で順位を決めるレースでした。日本は浴衣を着てひよっとこのお面をかぶって、Japanと書かれたハチマキを巻いた衣装となりました。開会式にも参加させていただき、ドラゴンの目に墨を入れる瞬間を目の前で見させていただきました。開会式後のレースということもあり、たくさんの人に応援されながらのレースとなりました。緊張の中行われたレースでしたが、結果は4チーム中1位となり、タイムでは3位となりました。レース後にインタビュー撮影にも参加させていただき、とても良い経験になりました。

初海外の1週間の生活について

私は、今大会が初めての海外でとても緊張していました。約1週間の滞在となり、不安なことがたくさんありました。日本語は通じない、文化も違う、食べ物も違うと1週間も過ごせるか心配していました。しかしチームのメンバーに支えてもらい、楽しく過ごすことができました。時間があるときは少し街を散策して、観光できる場所に訪れて写真をたくさん撮影しました。食事も少し辛いものが多いですがどれも美味しく、日本に帰ってからは恋しくなるぐらい好きになりました。街中では、日本のユニフォームを着ていることもあり、海外の選手や現地の方々に「Japan!」や「アリガトウ」など日本語であいさつしていただき海外選手の温かさを感じました。大会中は会場が大音量の音楽が流れており、リズムに乗って踊っている選手がいて一緒に踊ることもありました。「写真を一緒に撮ろう」と声をかけてくれる選手もたくさんいて嬉しかったです。現地のコンビニエンスストアにある自分で好きなだけ入れるフローズンが、大会後に飲むと最高に美味しかったです。マレーシアの気候が暑いことから冷たいドリンクが豊富にあり、少し甘いドリンクが多いですがそれも安く飲めて美味しかったです。初めての海外はこんなに楽しく、知らない世界に連れてきてくれたチームやドラゴンボートを始めてまだ期間の短い私を誘ってくれたメンバーの皆さんには感謝しかないです。こんな経験を大学生の間にできて本当に良かったです。